

〔成果〕泥状硫黄鉱の場合、流動層法では抽出液側に微細分が伴はれ、製品品位を低める事が予想された。

回転盤式円筒型向流連続抽出装置では、概ね順調に分離が進行する事を知った。後者について実験を進める予定

3.2.6 題目 テルル金銀鑛石の浮遊選鑛

鮫 島 昭

I 試料 始良郡山田鉱山産テルル金銀鉱

II 実験の方法

試料は鉱石粉砕機を用い、-100目篩に粉砕した。粒度分布は次の通り。

+100 目篩	0%
100~150 〃	67%
150~200 〃	18%
200~250 〃	10%
-250 〃	5%

この粉砕試料2畝を取り、次の条件で浮遊試験を行った。

使用機械：京大式浮遊試験機

	第1回	第2回
バ ル プ 濃 度	40%	16%
I ナル、ザンセート、カリ	25瓦/屯	〃
S. KK, 220	50瓦/屯	〃
炭酸ソーダ(無水)	1畝/屯	〃
硫 化 ソ ー ダ	300瓦/屯	〃
P. H	8.5	〃

III 実験結果

項目 区分	精鉱 収量	選鉱比	金		銀	
			品 位	実収率	品 位	実収率
原 鉱	瓦	倍	瓦/屯	%	瓦/屯	%
第1回試験	64	32.0	0.75	100	50	100
第2回試験	33	60.5	24.0	72.6	1600	88
尾 鉱	—	—	0	0	2660	0

IV 結果の考察

小数の試験結果から推論するのは、乱暴かも知れぬが、この種の鉱石は容易に浮遊で処理し得るものと考える。

同様な結果は前田氏も得ている。

第2回の浮遊試験で実収率が低かつたのは、パルプ濃度が低かつた為と思う。

3.2.7 題目 県内工業用水の分析結果

(第一報)

鮫 島 昭

本調査は工業用水調査の第一段階として主な河川水について行つた。

調査は工場で実際使用している河川水又は地下水について各時期に涉つて行ふべきであるが、まづ県内全般の主な河川水を調査する事にした。従つて分析項目も各産業に適應する様に多く設けた。

河 川 名	採取年月日	蒸発 残渣	P. H	比電 導度	還元力	全硬度	永久 硬度	鉄	アンモ ニア	硫酸根	クロール イオン	備 考
米 の 津 川	30. 2. 28	87	7.0	74	2.0	1.3	1.2	0.08	以下 0.1	0.4	7.8	出 水 市
高 尾 野 川	〃 3. 1	90	6.8	70	2.8	1.2	1.1	0.13	〃	0.2	9.0	高 尾 野
野 田 川	〃 3. 1	130	6.8	120	1.2	1.7	1.3	0.14	〃	0.3	11.5	野 田 郷
折 口 川	〃 3. 2	100	6.8	150	2.4	1.6	1.1	0.09	〃	0.4	18.0	折 口
万 瀬 川	〃 2. 23	81	6.9	100	1.8	1.4	1.3	0.09	〃	0.3	12.8	加 世 田 市
大 浦 川	〃 2. 24	93	6.8	150	1.6	2.0	1.8	0.12	〃	0.3	11.6	大 浦
花 渡 川	〃 3. 20	221	7.0	350	2.8	2.2	1.6	0.12	〃	0.6	76.0	枕 崎 市
加 治 佐 川※	〃 3. 21	8850	6.9	4000	10.2	78.4	54.7	0.12	〃	0.8	435.0	大 川
馬 渡 川	〃 3. 21	112	6.6	105	7.2	1.3	1.1	0.11	〃	0.3	18.0	御 領
集 川	30. 3. 22	71	6.9	1000	1.6	2.6	1.5	0.10	〃	0.7	15.4	額 娃
新 川(池田湖 放水路)	〃 3. 22	113	7.0	230	1.0	2.9	1.5	0.13	〃	0.4	10.4	額 娃 十 町
湊 川※	〃 2. 25	540	6.8	1000	2.6	4.4	3.2	0.10	〃	0.7	67.0	宮 ヱ 浜